夏季手当では、自らの組合員を欺き賃金抑制に加担！
年末手当抑制にも手を貸すのか！

低額回答反対！

夏季手当1．1ヶ月で「賃金削減はなくなった」は全くのウソ！

夏季手当は史上最低を大きく下回り、職場が騒然とした中で、貨物労組役員は「夏季手当1．1カ月で基本賃金１０％カットはなくなった」と職場オルグを展開しました。本当に「夏季手当1．1カ月で基本賃金１０％カットはなくなったのか」、事実は、「基本賃金カット」はやらないけれど、それに代わって「手当をカットする」、これが真相です。

会社幹部は、「労働組合が賃金カットの提案を受けないから、賞与など、それに代わる賃金で整理しギャップを埋める」と述べています。この発言は、事業計画に盛り込んだ人件費の未達分について、夏季手当をはじめ『手当』のカットで埋めることであり、社員の賃金カットで経費の未達を調整することでしかありません。

貨物労組役員が、職場で宣伝している、夏季手当の結果により「基本賃金１０％カットはなくなった」は全くの『ウソ』です。

貨物会社の「年末手当は夏同様厳しい」発言を受け…

貨物労組、徹底抗戦の姿勢を示すか？

貨物会社は、年末手当交渉において、鉄道事業の赤字圧縮、早期黒字化を目指している中、中間期において年初より赤字が拡大している現状も踏まえ、「夏同様に厳しいものにならざるを得ない」との考えに終始しています。

貨物労組は、第４回交渉速報で、「会社の示した考え方では到底納得できない」としていますが、一方で、組織部速報の中で、貨物会社が、２５年度下期に向けた下期通達を発し、その中の人件費施策見直しで「基本給１０％カットは下期では実施しないことを明らかにしました」併せて、『人件費は7．5億の削減を計画』と記載されるなどと、我々が知りえない非公式な情報も出され、まさしく「水面下での交渉があった」と言わざるを得ません。

夏季手当時における貨物労組の動きをみると、「賃金削減には断固反対」との姿勢を鮮明にし、さらに全国大会での相沢委員長挨拶は、「中央本部は賃金削減に最後まで反対する」と挨拶。田村社長の挨拶に対しては、「野次」など、全力で反対する決意を固めあった。ところが、大会の翌々日には夏季手当「1．1カ月」に席上妥結。これでは、「賃金削減反対はポーズ」「最初から出来レース」と揶揄されるのも当然ではないでしょうか。

貨物労組が下期通達で基本給１０％実施がなくなったものの、こんどは『手当カット』と報じていることは、まさしく会社との密談があったことになります。会社と決めた賃金削減は、どんな形であろうと協力する姿勢なのか？それとも、年末手当はじめ、断固闘う姿勢を貫くのか？いずれにしても責任組合の姿勢が大いに問われているのは確かではないでしょうか。

２０１３年１１月　全国貨物協議会